

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300055		
法人名	株式会社ウインズ		
事業所名	ウインズの森やまとGH	ユニット名	桜ユニット
所在地	仙台市若林区大和町1丁目22-45		
自己評価作成日	令和5年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域密着型の特徴を活かし、古くから住まわれている地域の方の協力もあり、感染対策を行いながら徐々に開かれた施設を目指して行きます。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>幼稚園や小学校、スーパーマーケット等が隣接する閑静な住宅街の一角にある。法人が有する「介護複合施設」の3階にあり、1階はデイサービス、2階は事務所となっている。震災前にホームがあった所の町内会長が運営推進会議のメンバーで、時折来訪され、入居者と一緒にプランターに花を植える等交流がある。社長は定期的に来訪し、入居者と談笑したり、職員に声をかけ、意見や提案を真摯に受け止めている。月3日、社長の好意で入居者希望の食事を提供する日があり、寿司や鰻が喜ばれている。管理者と職員、入居者は信頼関係で結ばれており、何でも話し合える関係にある。家庭的雰囲気の中、自由に穏やかに過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ウインズの森やまとGH) 「ユニット名 桜ユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他にグループホーム独自の理念を作成し各ユニットに掲示。	毎日の申し送り時に、理念の確認をしている。年度末に話し合い、継続している。管理者交代を機に、各ユニット理念の作成を考えている。入居者が、その人らしく、安心して過ごせるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実践できていない。	町内会に加入し、毎月会報が回ってくる。近隣公園の清掃や子供会資源回収に参加している。敬老会にボランティアの来訪で日本舞踊等の演目を楽しんだり、衣料品の出張販売等、地域住民との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の方々と手紙でやり取りを行い、報告、質問があれば答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に手紙でのやり取りを行っている。	今年10月に対面で開催した。町内会長や地域包括職員、民生委員、法人居宅職員、入居者、家族がメンバーとなっている。ホームの近況や入居者の様子等を報告し「ウインズの森」の事業方針(社是)を議題とした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所のとり組を面会時に伝えている。	介護保険更新や区分変更、生活保護の諸手続き等で担当職員に相談し助言を得ている。市主催や他の外部研修の知らせがくる。認知症介護者実践研修に参加した。ホームの空き状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを使用し、スタッフの勉強会を行い拘束のないケアとるようにしている。	「身体拘束虐待防止委員会」を3ヵ月毎に開催し、職員勉強会を行っている。職員はその都度感想文を提出している。家に帰りたい方には、ゆっくり話を聞く等寄り添う介護を実践している。転倒防止のため、居室にセンサーを使用している方がいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを使用しスタッフの勉強会を行っている。	月1回の内部研修で高齢者虐待防止法の勉強会を行なっている。「待つて」や「座って」等の言葉は虐待に繋がる事を理解している。不適切な言葉やケアがあった時は、職員同士で注意する関係は出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は一つ一つ読み上げ、都度疑問はないか確認しながら進めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に相談や要望を聞いている。運営推進会議で意見交換する場を設けている。	面会の制限はなくなり、家族は自由に来訪している。「今、風呂に入りたい」や「孫の結婚式に参加」等の要望に応えている。遠方の方は電話で話す。預り金受領書に意見や励ましの言葉が書き込まれ送られてくる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実践できていない。	毎日の申し送り時やユニット会議時に意見要望を聞き、話し合っている。夜勤者のホーム内掃除の見直しをした。シャワーチェア購入の要求に応えた。社長が定期的に来訪し、職員に声がけし意見等を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度、資格獲得へのサポート体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践できていない。	各種研修会に参加した時、他事業所の方と情報交換をする等交流を図っている。月2回の訪問医は話しやすい関係にあり、相談したり、助言をもらっている。訪問薬剤師から薬の飲み方等のアドバイスがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の気持ちを汲み取り、出来るだけ話を聞きお互いに理解できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の希望は勿論、ご家族様の思いや要望も取り入れながらケアにあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様と面談をし、利用者様、ご家族様の同意のうえでプランを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも含めた仲間作りを目指し、役割を持って生活していただけるように努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、ご家族様の思いで作りを大切にしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実践できていない。	昔の会社の同僚が訪ねて来た。年末年始は孫やひ孫の来訪が多い。定期的に来る訪問理容師は馴染みの関係となっている。携帯電話で自由に話をしている方がいる等、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を大切に、利用者様が気持ちよく過ごして頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実践できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに反映している。	日常の何気ない会話の中から把握した思いや要望をメモに残し、申し送り時に話し合っている。「干し柿やあげ饅頭が食べたい」等に応えている。意思疎通の難しい方は家族の協力を得て対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報をもとに利用者様を理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各チェックシートや生活記録で把握している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実践できていない。	毎月のユニット会議で入居者一人ひとりのモニタリングを行っている。6か月毎に計画を見直し、家族に確認している。「声かけやスキンシップを多くする」を援助内容に入れる等、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り帳や個人の記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネ、家族間で随時に話し合い、状況に応じた外部サービスを導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践できていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用している。(月に2回)	全員が月2回の訪問診療を受診している。医師とは気軽に話し合える関係を築いている。専門医受診は家族対応としている。歯科医と歯科衛生士の月2回の訪問があり、治療と口腔ケアの指導を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実践できていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実践できていない。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しご本人、ご家族に署名、捺印をいただいている。	「重度化対応・終末期対応指針」を明文化し、入居契約時に常時医療が必要となった時は退居となる旨を説明している。重度化した時に医師より説明があり「看取り看護・介護についての同意書」を交わしている。ターミナルケアに関する研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを確認し定期的に内部研修を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。	避難訓練計画書を作成し、出火場所により避難経路を変えている。広いベランダを避難場所とし、近隣にある消防車を待つ体制を整えている。終了後反省会を行っている。地域に災害時避難場所として提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを共有している。	トイレ誘導の声かけは、トイレとは言わずに「ちょっと行きましょう」とトーンを低くして耳元で行っている。オムツ交換は居室のドアを閉めてする等、一人ひとりのパターンに合わせた関わり方で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に個別的に指導したり、研修を行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立度の高い方が多く、個人を尊重した生活を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し選択して頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けなどを手伝っていただいている。	献立と食材は食配業者を利用している。調理や味付け等を入居者と一緒に行なっている。誕生日はケーキを手作りする。月3回、入居者の食べたい物を社長より提供される。寿司と鰻が多い。行事食や外食がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に合わせて個々の提供方法を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用している。(月に2回)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実践できていない。	オムツの方数名で他は布パンツやリハパンを使用し、トイレで排泄している。トイレに行くために歩き出したら、職員は何気なく近寄り、見守っている。夜間も無理に起こすことはしない。この現状を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実践できていない。往診時に医師と相談し内服処方などで対応している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	実践できていない。	週2回の入浴になるようにしている。入浴剤やおしゃべりしながら等、入浴が楽しくなるよう支援している。ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じている。入居者の高齢化に合わせてシャワーチェアの購入を要望した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実践できていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て職員が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実践できていない。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実践できていない。	花見や紅葉見学等の年間行事は自粛している。近隣の農業園芸センターへドライブした。天気の良い日はウッドデッキに椅子を出して、日向ぼっこやおしゃべりを楽しんでいる。洗濯物をベランダに干す等、外に出る機会を多くするよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全て職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおり個人で行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実践できていない。	ユニット間のホールは繋がっているので広々としている。随所に空気清浄機と24時間自動換気システムが設置され、温湿度は適切に管理されている。壁の手作りのカレンダーやハロウインの飾りが季節を感じる。ソファが置かれ居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんど居室で過ごしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、個人で持ち込みなどしている。	入口に入居者の顔写真入りの表札が掛けている。ベッドやクローゼット、エアコンが備え付けである。仏壇やマリア像、お気に入りの縫いぐるみが置かれ、壁に家族の写真を飾り安心できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実践できていない。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300055		
法人名	株式会社ウインズ		
事業所名	ウインズの森やまとGH	ユニット名	秋桜ユニット
所在地	仙台市若林区大和町1丁目22-45		
自己評価作成日	令和5年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域密着型の特徴を活かし、古くから住まわれている地域の方の協力もあり、感染対策を行いながら徐々に開かれた施設を目指して行きます。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>幼稚園や小学校、スーパーマーケット等が隣接する閑静な住宅街の一角にある。法人が有する「介護複合施設」の3階にあり、1階はデイサービス、2階は事務所となっている。震災前にホームがあった所の町内会長が運営推進会議のメンバーで、時折来訪され、入居者と一緒にプランターに花を植える等交流がある。社長は定期的に来訪し、入居者と談笑したり、職員に声をかけ、意見や提案を真摯に受け止めている。月3日、社長の好意で入居者希望の食事を提供する日があり、寿司や鰻が喜ばれている。管理者と職員、入居者は信頼関係で結ばれており、何でも話し合える関係にある。家庭的雰囲気の中、自由に穏やかに過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ウインズの森やまとGH) 「ユニット名 秋桜ユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他にグループホーム独自の理念を作成し各ユニットに掲示。	毎日の申し送り時に、理念の確認をしている。年度末に話し合い、継続している。管理者交代を機に、各ユニット理念の作成を考えている。入居者が、その人らしく、安心して過ごせるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実践できていない。	町内会に加入し、毎月会報が回ってくる。近隣公園の清掃や子供会資源回収に参加している。敬老会にボランティアの来訪で日本舞踊等の演目を楽しんだり、衣料品の出張販売等、地域住民との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の方々と手紙でやり取りを行い、報告、質問があれば答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に手紙でのやり取りを行っている。	今年10月に対面で開催した。町内会長や地域包括職員、民生委員、法人居宅職員、入居者、家族がメンバーとなっている。ホームの近況や入居者の様子等を報告し「ウインズの森」の事業方針(社是)を議題とした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所のとり組を面会時に伝えている。	介護保険更新や区分変更、生活保護の諸手続き等で担当職員に相談し助言を得ている。市主催や他の外部研修の知らせがくる。認知症介護者実践研修に参加した。ホームの空き状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを使用し、スタッフの勉強会を行い拘束のないケアとるようになっている。	「身体拘束虐待防止委員会」を3ヵ月毎に開催し、職員勉強会を行っている。職員はその都度感想文を提出している。家に帰りたい方には、ゆっくり話を聞く等寄り添う介護を実践している。転倒防止のため、居室にセンサーを使用している方がいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを使用しスタッフの勉強会を行っている。	月1回の内部研修で高齢者虐待防止法の勉強会を行なっている。「待つて」や「座って」等の言葉は虐待に繋がる事を理解している。不適切な言葉やケアがあった時は、職員同士で注意する関係は出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は一つ一つ読み上げ、都度疑問はないか確認しながら進めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に相談や要望を聞いている。運営推進会議で意見交換する場を設けている。	面会の制限はなくなり、家族は自由に来訪している。「今、風呂に入りたい」や「孫の結婚式に参加」等の要望に応えている。遠方の方は電話で話す。預り金受領書に意見や励ましの言葉が書き込まれ送られてくる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実践できていない。	毎日の申し送り時やユニット会議時に意見要望を聞き、話し合っている。夜勤者のホーム内掃除の見直しをした。シャワーチェア購入の要求に応えた。社長が定期的に来訪し、職員に声がけし意見等を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度、資格獲得へのサポート体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践できていない。	各種研修会に参加した時、他事業所の方と情報交換をする等交流を図っている。月2回の訪問医は話しやすい関係にあり、相談したり、助言をもらっている。訪問薬剤師から薬の飲み方等のアドバイスがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の気持ちを汲み取り、出来るだけ話を聞きお互いに理解できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の希望は勿論、ご家族様の思いや要望も取り入れながらケアにあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様と面談をし、利用者様、ご家族様の同意のうえでプランを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも含めた仲間作りを目指し、役割を持って生活していただけるように努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、ご家族様の思いで作りを大切にしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実践できていない。	昔の会社の同僚が訪ねて来た。年末年始は孫やひ孫の来訪が多い。定期的に来る訪問理容師は馴染みの関係となっている。携帯電話で自由に話をしている方がいる等、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を大切にし、利用者様が気持ちよく過ごして頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実践できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに反映している。	日常の何気ない会話の中から把握した思いや要望をメモに残し、申し送り時に話し合っている。「干し柿やあげ饅頭が食べたい」等に応えている。意思疎通の難しい方は家族の協力を得て対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報をもとに利用者様を理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各チェックシートや生活記録で把握している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実践できていない。	毎月のユニット会議で入居者一人ひとりのモニタリングを行っている。6か月毎に計画を見直し、家族に確認している。「声かけやスキンシップを多くする」を援助内容に入れる等、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り帳や個人の記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネ、家族間で随時に話し合い、状況に応じた外部サービスを導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践できていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用している。(月に2回)	全員が月2回の訪問診療を受診している。医師とは気軽に話し合える関係を築いている。専門医受診は家族対応としている。歯科医と歯科衛生士の月2回の訪問があり、治療と口腔ケアの指導を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実践できていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実践できていない。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しご本人、ご家族に署名、捺印をいただいている。	「重度化対応・終末期対応指針」を明文化し、入居契約時に常時医療が必要となった時は退居となる旨を説明している。重度化した時に医師より説明があり「看取り看護・介護についての同意書」を交わしている。ターミナルケアに関する研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを確認し定期的に内部研修を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。	避難訓練計画書を作成し、出火場所により避難経路を変えている。広いベランダを避難場所とし、近隣にある消防車を待つ体制を整えている。終了後反省会を行っている。地域に災害時避難場所として提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを共有している。	トイレ誘導の声かけは、トイレとは言わずに「ちょっと行きましょう」とトーンを低くして耳元で行っている。オムツ交換は居室のドアを閉めてする等、一人ひとりのパターンに合わせた関わり方で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に個別的に指導したり、研修を行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立度の高い方が多く、個人を尊重した生活を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し選択して頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けなどを手伝っていただいている。	献立と食材は食配業者を利用している。調理や味付け等を入居者と一緒に行なっている。誕生日はケーキを手作りする。月3回、入居者の食べたい物を社長より提供される。寿司と鰻が多い。行事食や外食がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に合わせて個々の提供方法を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用している。(月に2回)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実践できていない。	オムツの方数名で他は布パンツやリハパンを使用し、トイレで排泄している。トイレに行くために歩き出したら、職員は何気なく近寄り、見守っている。夜間も無理に起こすことはしない。この現状を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実践できていない。往診時に医師と相談し内服処方などで対応している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	実践できていない。	週2回の入浴になるようにしている。入浴剤やおしゃべりしながら等、入浴が楽しくなるよう支援している。ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じている。入居者の高齢化に合わせてシャワーチェアの購入を要望した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実践できていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て職員が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実践できていない。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実践できていない。	花見や紅葉見学等の年間行事は自粛している。近隣の農業園芸センターへドライブした。天気の良い日はウッドデッキに椅子を出して、日向ぼっこやおしゃべりを楽しんでいる。洗濯物をベランダに干す等、外に出る機会を多くするよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全て職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおり個人で行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実践できていない。	ユニット間のホールは繋がっているので広々としている。随所に空気清浄機と24時間自動換気システムが設置され、温湿度は適切に管理されている。壁の手作りのカレンダーやハロウインの飾りが季節を感じる。ソファが置かれ居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんど居室で過ごしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、個人で持ち込みなどしている。	入口に入居者の顔写真入りの表札が掛けている。ベッドやクローゼット、エアコンが備え付けである。仏壇やマリア像、お気に入りの縫いぐるみが置かれ、壁に家族の写真を飾り安心できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実践できていない。		